

洛東園 だより



■平成23年7月発行 社会福祉法人 洛東園
■発行責任者:木村晴恵
■〒605-0981 東山区本町15丁目794
■電話番号:561-1171 ■FAX:531-8372
■ホームページアドレス <http://www.wf-rakutouen.com>

生きる力

社会福祉法人 洛東園 理事 杉井 哲朗

「若い時に旅をいたさねば、年老いて物語がない!」
このフレーズは狂言の台詞の一つです。「若い時に旅をいたさねば…」は、皆様がお分りのように「若い時の苦労は買うてもせよ」と同じです。昔の旅は今日の旅行と違い、いつも死に直面する場面に出くわします。山あり! 谷あり! その山にも谷にも足を取られたり滑ったり。時には怪我をしたり動けなくなったりします。

所謂、失敗が多く積み重なってきます。しかし、一つの失敗で多くのことを学び、次にはこの過ちを繰り返さない工夫や努力をします。この工夫や努力で困難を乗り越えることが、明日につながる未来との出会いになります。

「年老いて物語がない!」とは、「亀の甲より年の功」と同じです。一見否定的な言い方をしていますが、そうではありません。年輪を積み重ねた人々は、その積み重ねた仕事や経験が生きてくる。そしてその経験を若

い人のために、語り部の如く水先案内ができるのです。水先案内も、面白可笑しく、色々な道筋を現すことができます。また聞く人・問いかける人に応じた案内ができるのも「年老いての物語」です。

「年老いて」は「生きる力」でもあります。「生きながらえる…」、これは大きな生命力です。年輪は大きいほど遅い。そしてその年輪は「生の永続性」を現し、その範を廻りに伝播します。そこには鳥や動物が集まり、和みの場を提供します。長生きすることの価値!そこには世の中、そして若者達へのメッセージが蓄積されているのです。

「若い時に旅をいたさねば、年老いて物語がない!」この狂言の一フレーズは、“老いることの楽しさ”を見つける方法を示唆しています。還暦を過ぎた年齢ですが、今まさにこれから「旅をいたさねば…」と思考しています。

洛東園の理念

- ◎個性・自主性を尊重し明るい温もりのある生活
- ◎安全と快適な暮らし
- ◎地域に根ざした開かれた施設

■ 特別養護老人ホーム 修道洛東園

団結力と組織力



移乗用ボード(スライディングボード)

修道洛東園が4月に開設して早3ヶ月が経ち、4月から約1か月で、長期利用者63名の方が入居されました。5月からは短期入所も開始しています。

開設に先立ち、3月に研修を行い、法人としての理念や修道洛東園の方針などを学びました。研修の中では、「寝返りできない状態でベッドへ横になる」、「麻痺のある方が車椅子に長時間座る」、といった利用者体験も行い、どういう気持ちになるかをそれぞれ考えました。寝返りができない辛さや同じ体勢を取り続ける辛さなど、利用者さんの気持ちを理解する上で、とても良い機会となりました。また、ベッドから車椅子に移る移乗などの時に、利用者さんや介護職員ともに負担にならないよう、「持ち上げない介護技術」の講習も行いました。

「持ち上げない介護技術」とは、人の自然な動き

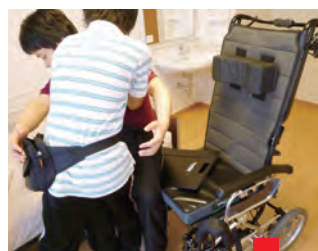
に合わせ、摩擦力に着目した介護技術です。利用者さんの身体の下に「すべりやすい素材」(ビニールシートや移乗用ボード)を敷いて摩擦力を減らした上で、自然な動きの方向に押す、引く、回転させるということを行います。

体験した職員からは「全く腰に負担がなかった」「力を入れずに移乗ができた」などの感想が聞かれました。こういった介護技術は、利用者さんへの負担も大幅に軽減することができます。ひとりひとりがしっかりとした介護技術を身に付けられるように、今後も勉強会などを開催していきたいと考えています。

この修道洛東園を開設するにあたり、新卒、福祉・医療の経験がある職員、合わせて約30名が加わりました。業務の進め方などは、各階のリーダーを中心に決定し、利用者さんへのケアは、事前の情報を元に、食事や排泄、入浴の方法などひとつひとつ確認しながら行いました。初めて介護の現場を経験する職員も多く、利用者さんとのコミュニケーションの取り方や介助方法などは、経験のある職員を中心に行いました。

利用者さんの生活を支えていくためには、介護職員・看護師・栄養士など修道洛東園全員の団結力と、「社会福祉法人 洛東園」という大きな組織力が必要です。

修道洛東園の歴史は始まったばかりです。利用者さんやご家族、地域の方々に喜ばれる施設を目指し、成長していきたいと思っております。



ベッドから車椅子への
移乗方法
(移乗用ボードを使用)

①移乗用ボードへ移動



②車椅子へ滑るように移動



③車椅子に座る

□ 特別養護老人ホーム 洛東園

力を合わせて

洛東園では、昨年の10月頃より、利用者さんと力を合わせて作り上げているものがあります。

それは、絵の得意な職員が中心となり、利用者さんと一緒に作る壁かけです。ハサミで切ったフェルトを貼り付け、細かい作業に集中し、皆で力を合わせて作った壁かけは、3階フロアの壁に飾られています。

壁かけ作りを始めたきっかけは、室内で過ごすことが多い利用者さんのために、壁かけを通して季節を感じてもらいたい…という思いからです。「窓から見える景色」をテーマに、毎年繰り返し利用者さんとの思い出を飾れるようにしました。フェルトを切ったり貼り付けたり、「ここはこの色がええな」「もう少し大きくした方が良いんとちゃうか」などと話し合ったりしながら、皆で作業を進めていくにつれて、徐々に景色が現れてきます。

また、作業に真剣だった利用者さんの顔がだんだんと和らぎ、「不器用な私やのに上手にできたわ」と笑みがこぼれるようになりました。利用者さんが一所懸命作った作品に、達成感と季節感を感じて頂ければ幸いです。

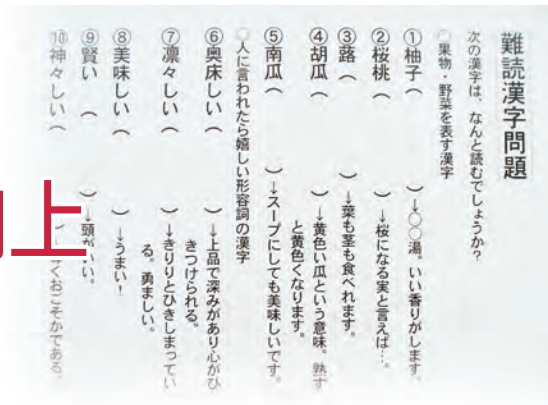
最近では、壁かけ以外にも、色々な物を使って作品を作っています。正月には新聞紙で作ったしめ縄を、五月にはダンボールで鯉のぼりを作りました。当初は季節ごとに作っていましたが、今では毎月の恒例となり、利用者さんが楽しみにしています。



もうすぐで完成やなあ～

洛東園では、手のリハビリも兼ねて今後も壁かけ作りを行っていきます。毎月、壁の様子が変化するので、利用者さんと力を合わせて作った時間を思い出します。また、「もう夏やなあ。1年過ぎるの早いなあ」「ここは私が貼ったんやで」など、壁かけを通じて利用者さん同士のお話が弾まることもあります。これからも、利用者さんと力を合わせ、素敵な作品を作っていきたいと思います。来園された時には、是非ご覧ください。

■ デイサービスセンター 頭の体操で能力向上



ある利用者さんに、「デイサービスの魅力は何ですか」と伺いました。すると、「勉強ができること」と答えて下さいました。勉強とは、午前中に取り組んでいる『プリントを使った頭の体操』のことです。

デイスサービスでは、午前中、新聞を読まれる方、会話を楽しまれる方、と皆さんそれぞれ自由にゆったりと過ごされています。その中で、頭の体操のひとつとして、プリントやぬり絵をお配りしています。プリントには、簡単な計算問題や漢字問題、間違い探しや地図の穴埋め問題等、日によって様々な問題を取り入れています。

田中さん(仮名):「この漢字(公孫樹)、なんて読むかわかる？」

山本さん(仮名):「わからへん。なんやろなあ。イ
チョウちゃうかな」

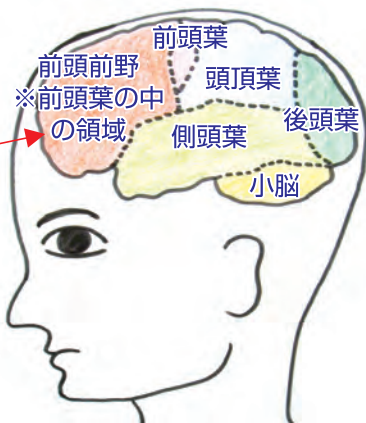
田中さん:「ああ。イチヨウか」

利用者さん同士、分からない所を聞き合い助け合いながら、プリントに答えを書き込まれます。そ

脳のしくみ

前頭前野

- ・思考を司る
- ・行動をコントロールする
- ・意思決定をする
- ・感情をコントロールする
- ・記憶をコントロールする
- ・意識を集中させる
- ・意欲を出す



して、利用者さんを中心に答え合わせを行います。

職員:「8番、この魚偏の漢字(鯨)は、何と読むでしょうか」

鈴木さん(仮名):「くじら」

職員:「正解です!昔はくじらをよく食べておられたんですよね。私は食べたことがないんですが、くじらはおいしいですか?」

鈴木さん:「うまいでえ。味噌汁にも入れて食べてたわ」

職員:「へえー!味噌汁の具にもなるんですか!」

答え合わせをしながら、職員が利用者さんから教えていただくことも多くあります。

プリントの問題を読んで答えを書き込んだり、簡単な計算をしたり、他の利用者さんと会話をしながら問題を解いていくことは、全て脳の活性化につながり、特に脳の前頭前野という部分が活性化されます。活性化することで、コミュニケーション能力（誰かと話をしたり、共同作業を行うために必要な能力）や、身の回りのことを自分で行う能力、自分自身の行動や気持ちを抑える能力を向上させることができます。毎朝取り組んでいる頭の体操を通して、脳が活性化され、様々な能力の向上につながっています。

これからも、皆さんに興味を持って楽しく取り組んでいただけるような問題を選び、頭の体操がデイサービスの魅力となるよう取り組んでいきたいと思っています。

■ 地域介護予防推進センター シニアライフを向上させる力



東日本大震災直後の3月19日、日頃より介護予防に取り組まれている高齢者の方々の「平成22年度健康づくり実践発表会」が、東山区総合庁舎で行われ、200名を超える参加者で大いに盛り上がりを見せました。今年度は、被災地の事などを考慮し、自粛の声も聞かれましたが、「こんな時こそ元気になれることを発信しよう!」との思いから、予定通りの開催となりました。

発表会では、「京都の元気は東山から!」を合言葉に、各グループの皆さんが工夫を凝らせた演出で、元気ハツラツ、笑顔いっぱい、日頃より運動教室やサークルでの介護予防に取り組まれているトレーニングの成果を披露されました。見学の方からも、「活動的な姿に驚いた」「元気をもらった」「自分も頑張ろうと思った」という感想が聞かれました。発表者の皆さんの笑顔、見ている

人たちをそんな気持ちにされる力の源は何でしょうか?

それは、ズバリ「運動機能の維持と向上」にあります!介護予防運動教室では、転倒予防のための下肢筋力トレーニングを中心に、様々な方法で、個人の体力に合わせた、無理なく楽しく取り組める多くのプログラムを用意しています。

先日、運動教室に参加されている方が、「震災が起きてから、ずっと体調が悪い」と言われました。毎日、テレビのニュースを見たりなどしていると、涙が出て気持ちが沈み、体調にも影響が…それでも、運動教室を休まずに続けて来られているのは、「今、自分にできることは何か。直接被災地の方の力にはなれないけれど、自分が元気で毎日を過ごすことが、自分のため、自分に関わる大切な人のためになる。いつまでも自分の意思で、自分の足で歩きたい。そのためには、頑張って運動しなければ!」との思いを話してくださいました。運動は一人では続かないけれど、教室に行けば仲間がいて、一緒に楽しく続けられるとの思いで参加する方が、他にも多く居られます。

そんな皆さんの思いや笑顔が、私たち運動指導員のパワーにもなっています。そして皆さんの元気の源、「運動機能の維持と向上」のため、指導員は今日もこれからも、「1・2・3・4・5・6・7・8」と、大きな掛け声で、皆さんのシニアライフを応援し続けていきます。

訪問介護

力を引き出す介護力



私達ヘルパーは、利用者さんのご自宅に伺い、ご家庭での生活が維持できるように支援させて頂くことが仕事です。

それぞれの利用者さんは、ご自宅で生活されるうえで、ヘルパーや福祉用具を活用し、ご自分の持っておられる“力”を最大限に活かそうと工夫されています。

例えばトイレに行かれる際。ヘルパーがベッドから身を起こすのを助け、立ち上がりやすいようベッドの高さを調節します。「後ろ、持っていて～」との言葉に腰を支え、「1、2の3」と声をかけると、手すりをしっかり持ち、足を踏ん張って立ち上がられます。最初の一步を確認し、一步一步、膝に力を入れ、「いつまで歩いてトイレにいけるのかな～」と心

配されながらも、ご自分でトイレまで歩かれます。

また、ある利用者さんは、お風呂にシャワーチェアや浴槽手すり、浴槽内マットを設置しておられます。ヘルパーが後ろから支え、滑らないように注意し、お互いに声をかけながら、手すりを持って片足ずつ浴槽をまたぎ、ゆっくりと腰を下ろし、湯船に浸かれます。

「ああ、気持ちいい～幸せや～」と、ホッとされた表情を見ると、ご自宅での入浴が楽しみで、くつろげる大切な時間であると感じます。

このように、足りなくなった部分には、ヘルパーや福祉用具などを活用し、いつまでもご自分の家で、ご自分の力で、暮らし続けるための協力ができることは、本当に素晴らしいことだと思います。

養護老人ホーム 生きる力



養護老人ホームで生活されている大久保さんは、今年で98歳になられます。普段からスカーフを巻いたり、帽子を被ったり、カチューシャをされ

たりと、おしゃれを楽しみながら元気に暮らしておられます。

絵や唄が趣味で、部屋でぬり絵をされたり、養

護の取り組みで月に一度行われているやまびこクラブ(カラオケ教室)で、唄を歌って過ごされています。

毎日を力強く過ごされている大久保さんに、お元気の秘訣を伺いました。

「若い頃、戦争で主人を亡くしてからは、子ども達のためにがむしゃらに働いた時代があったわ。強いて言うたら、その時が一番しんどかったなあ、子どもを育てなあかんかったからね」と話されていました。

20歳から家政婦の仕事に就き、50歳から78歳までは飲食店でウェイトレスの仕事をされていたそうです。78歳まで働き続けることができた原動力は何だったのか伺うと、「そりゃあやっぱ子ども達のためやろうな、子どもの存在が大きな力やったからね」と話された後、「でも大変だった

けど、一回もしんどいとか、休みたいと思ったことは不思議となかったわ」と語って下さいました。

子育てを終えてからは、75歳くらいから唄を歌うことを趣味とされ、現在も続けておられます。大久保さんが見せて下さった写真には、90歳で舞台の上で生き生きとした表情で唄を歌っている姿が写っていました。

子育てに仕事にと忙しく過ごす日々の中では、子ども達のためにと力一杯生きて来られ、現在はい唄を歌うことで人生に喜びを見つけ、前向きに過ごしておられる大久保さんから「生きる力」を教わった気がします。

今後も大久保さんの「生きる力」が継続できるよう、支えていきたいと思います。

事業活動収支計算書

(自)平成22年4月1日(至)平成23年3月31日

(単位:円)

支出の部		収入の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
人件費支出	557,314,907	介護保険収入	572,910,682
事務費支出	150,090,551	措置費収入	174,136,961
事業費支出	129,969,506	診療報酬収入	19,622,280
減価償却費	27,696,631	その他の事業収入	73,746,352
退職給与引当金繰入	9,584,019	補助金収入	55,575,856
		寄付金収入	7,658,794
		雑 収 入	2,732,523
事業活動支出計	874,655,614	事業活動収入計	906,383,448
借入金利息支出	4,246,165	受取利息配当金収入	54,908
会計単位間繰入金支出	73,000,000	会計単位間繰入金収入	73,000,000
経理区分間繰入金支出	220,000,000	経理区分間繰入金収入	220,000,000
雑 損 失	2,630,870	雑 収 入	21,745
事業活動外支出計	299,877,035	事業活動外収入計	293,076,653
固定資産処分損	34,208	施設整備等補助金収入	301,190,000
その他の特別損失	486,162	その他の特別収入	753,517
国庫補助金等特別積立金積立額	298,490,000		
特別支出計	299,010,370	特別収入計	301,943,517
次期繰越活動収支差額	889,946,521	(当期活動収支差額)	27,860,599
		前期繰越活動収支差額	844,257,957
		その他の積立金取崩額	17,827,965
支出の部合計	2,363,489,540	収入の部合計	2,363,489,540

貸借対照表

平成23年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
流 動 資 産	542,410,137	流 動 負 債	140,095,903
固 定 資 産		固 定 負 債	999,858,152
基 本 財 産	1,684,560,249	負債の部合計	1,139,954,055
その他の固定資産	394,915,639	純資産の部	
		基本金	143,995,429
		国庫補助金特別積立金	432,678,170
		その他の積立金	15,311,850
		次期繰越活動収支差額	889,946,521
		(うち当期活動収支差額)	27,860,599
		純資産の部合計	1,481,931,970
資産の部合計	2,621,886,025	負債及び純資産の部合計	2,621,886,025

洛 東 園 の 行 事 予 定

施設名		7 月	8 月	9 月
養護老人ホーム	洛 東 園	七夕会	納涼夏祭り	敬老祝賀式
	特別養護老人ホーム	ビアパーティー／祇園祭見学	*****	敬老祝賀式
デイサービスセンター	修 道 洛東園	納涼祭／貞救夏祭り	修道ふれあいまつり	敬老祝賀式
	もみじの家	納涼会	盆踊り	敬老祝賀式
全 体		納涼会／貞救夏祭り	夏祭り	敬老祝賀式
		*****	施設鬼法要／健康診断	総合防災訓練

その他、クラブなども随時行っております。

□ もみじの家

“ありがとう”～言葉の力～

もみじの家に週2回来られる川南さん(仮名)は、来所されるといつもの席に座られ、フロアから見える中庭の景色を眺めておられます。

「職員さん、あの木は50センチぐらい大きくなってます。前はあの屋根より低かったんですよ。私はここから見る景色を楽しみにしてるんです」と嬉しそうに話されます。

昔から花や植木が好きな川南さんは、もみじの家で庭を眺めたり、花の世話をすることを楽しんでおられます。

ある日、もみじの家の玄関に咲く、チューリップやアネモネの花を、川南さんと見ていた時のことです。川南さんは一輪一輪の花に手を添え、「ありがとね。ありがとね」と感謝の言葉をかけられていました。

■職員:「どうして“ありがとう”って言われているんですか」

■川南さん:「綺麗に咲いてくれたさかいに感謝の気持ちを言うてるんです。私も言葉で応援し

てもろたから今の自分があるんです。だから感謝の気持ちは常に言うようにしてます」

■職員:「そのように思われるようになったきっかけがあるんですか」

■川南さん:「悉皆(しっかい)の仕事してる時に、神主さんや一般のお客さんに品物納めたら“ありがとう”って言うてもろたから、しんどかって心も和みました。ここに寄してもろても優しい言葉かけてもらえるし、大したお手伝いしてへんけど“ありがとう”言うてもらえたら嬉しいし、頑張れます。職員さんもそうでっしゃろ」

川南さんの言葉を聞いて、改めて“ありがとう”の言葉の力と伝えることの大切さを感じた瞬間でした。

私たち職員はいつも利用者さんの“ありがとう”に励まされ、“頑張る”力を頂いています。私たちに与えて下さる“力”に感謝し、これからも職員一同、利用者さんに笑顔で頑張って頂けるよう支援していきたいと思ひます。

洛東園だより

発行／社会福祉法人 洛東園

〒605-0981 東山区本町15丁目794

電話番号:561-1171 FAX:531-8372

ホームページアドレス

<http://www.wf-rakutouen.com>

※尚、記事中の写真は全てご本人様、ご家族様の承諾を得て掲載しております。

寄 付

寄付順

阪本 操様、中藤和美様、釋 弘子様

洛東園では、3月11日に発生した東日本大震災の募金活動を行っております。集まった募金は、東山区社会福祉協議会を通じ、被災地にお届け致します。今後も継続していきたいと思っております。

苦情委員会

今年度もアンケート調査を行わせて頂きます。サービスの質の向上に向けての参考にさせていただきますので、宜しくお願い致します。アンケートは9月初旬、お手元に届く予定です。皆様のご意見をぜひお聞かせ下さい。

